



北海道の将来のビジョンを みんなで共有し、 行動する年に

（財）北海道開発協会会長 小林好宏

新年明けましておめでとうございます。皆さまにはますますご健勝ご繁栄のことと、謹んでお慶び申し上げます。

わが国経済は、米国サブプライムローン問題による金融市場の変動や原油価格高騰、耐震強度偽装問題などの影響を受けながらも、企業部門の好調さが持続しており、今後も緩やかながら回復基調を続けていくものと予想されています。

昨年、医師不足問題などの地域格差、ネット難民に象徴されるような雇用格差、宙に浮いた年金記録問題や相次ぐ食品偽装事件、訪問介護大手コムスの認定打ち切りなど、私たちの生活を支える安心安全が失われていく危なさを強く感じさせる1年でした。

しかしその一方で、道内では環境が主要テーマとなる北海道洞爺湖サミットの2008年開催決定、北海道日本ハムのリーグ連覇、コンサドーレ札幌のJ1昇格などの明るい話題も多く、また良食味化した道産米の好調な販売や自動車関連企業進出の動き、新千歳—北京定期航空路線開設、実現すれば道内初となる国際貨物定期路線就航に向けた米国貨物専用航空会社の検討表明など、北海道を活性化する動きや取り組みも目立ちます。

本年は、北海道の今後10年のグランドデザインとなる、新たな北海道総合開発計画がスタートする年です。国土審議会北海道開発分科会で検討中の新たな計画素案では、計画の意義を北海道の資源・特性を活かした国の課題解決への貢献、豊かな経済社会づくりのための先駆的・実験的な取り組みへの挑戦にあるとし、今後の北海道開発の基本的な方向性（主要施策）として、①グローバル

な競争力ある自立的安定経済の実現、②地球環境時代をリードし自然と共生する持続可能な地域社会の形成、③魅力と活力ある北国の地域づくり・まちづくり、④内外の交流を支えるネットワークとモビリティの向上、⑤安全・安心な国土づくりの5つを掲げ、その進め方として、多様な連携・協働、新たな時代を見据えた投資の重点化、新たな北海道イニシアティブの発揮をうたっています。

また、7月に開催が予定されている北海道洞爺湖サミットを好機ととらえ、北海道を内外に積極的にPRする動きも本格化しています。

年末の予算編成では、こうした動きに配慮した北海道開発予算が組まれています。

当協会におきましても、この大きな時代の潮流、変化を見据えながら、北海道の新しい計画の基本方向に即し、公益法人として、北海道開発の意義と重要性を広く社会にアピールする役割を果たすとともに、自らも行政や地域、市民団体と協働し、環境との調和を豊かさと感じる新しい価値観のもとで、北海道を活力ある、それぞれの思いを実現できる場としていくというスタンスに立って努力していきたいと思っています。

本年は、北海道の将来のビジョンをみんなで共有し、自らの行動に変えていく年です。

年頭にあたり、新しい年が北海道と北海道のすべての人々にとって、平和で安らぎのある、新しい発見や明日への挑戦といった希望に満ちた年となることを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。